



敷島から
県政に!

子ども まんなか社会

保育園を 運営して 見えたこと

望んだ保育園や年度途中の入園が困難な「保留児童」、保育士の働き方改革、保育料の完全無償化や病児病後児保育などを進めないと「質の高い保育」や子育て世代の所得は増えないよね。

子どもながらに 生きづらさを感じ

主体性とか多様性とか言葉だけが独り歩きしていない？ 幼保小連携や障がい者への連携ができていない。家庭・行政・関係機関・教育施設など、子どもたちにみんなが連携できる体制づくりをする必要がある。また「無園児」をなくし、孤立する子どもや親の支援を積極的にすすめることが大切。

現実に夢も希望も 持てない子どもが 増えている？

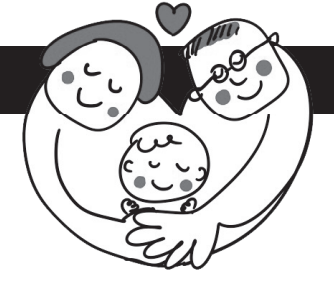
中学・高校生は可能性を広げる時期。県外進学を望む子どもが増えているのが現状。スポーツや文化芸術部の底上げをして、公立校でも全国上位を目指せる環境にする必要があるでしょ。

子どものことばかり言っているけど、経済や高齢・障がい福祉なども推し進めないと山梨に未来なんてない。その根幹として、大人都合主義からこれからの時代を生きる子どもたちを「ど真ん中」に考えた社会へ考え方を転換していく必要がある。

子どもたちの
未来を
つくるのは
大人の責任

山梨の子どもを取り巻く環境

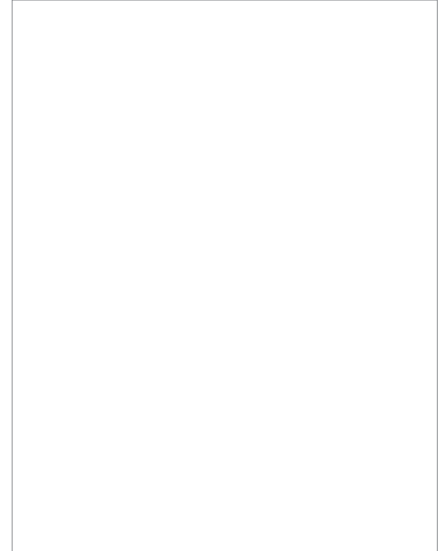
- 子どもの数 91,629人 山梨人口全体の11.3% (2020年)
- 子ども貧困率 10.6% 10人に1人 (2017年)
- ヤングケアラ(支援対象者) 28人に1人 (2022年)
- 児童虐待相談対応件数 2,259件 (2021年)
- 小中高長期欠席数 1,681人 (2022年)
- 小中高いじめ認知件数 5,995件 (2019年)



横山ようすけのフェイスブックのQRコードです。スマホで読み取るとサイトにジャンプします。

NO選挙カー!!

子どもたちの未来を考える立場として、選挙カーの音で赤ちゃんを起こしたり、春休みに勉強をしている子どもたちの妨げになってはいけないと思っています。その他に環境問題などにも考慮する必要があります。慣習のように続けてきた選挙のやり方も政治家が変えていくべきと私は考えます。



昭和五十二年十一月四日生まれ「四十五歳」
よこやま
横山
ようすけ